

有珠山の火山活動解説資料（令和4年1月）

札幌管区气象台
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1-①～④、図2～5）

18日に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）では、山頂火口原内の噴気の状況に変化はなく、赤外熱映像装置による観測でも地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

監視カメラによる観測では、山頂火口原からの噴気の高さは火口縁上200m以下で、噴気活動は低調な状態です。

・地震及び微動の発生状況（図1-⑤、図6）

火山性地震は山頂火口原の海面下1km以浅で発生しました。地震回数は少なく、地震活動は低調な状態です。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図7）

GNSS連続観測では、火山活動の高まりを示すような変化は認められません。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び北海道のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『数値地図 25000（行政区・海岸線）』を使用しています。

次回の火山活動解説資料（令和4年2月分）は令和4年3月8日に発表する予定です。

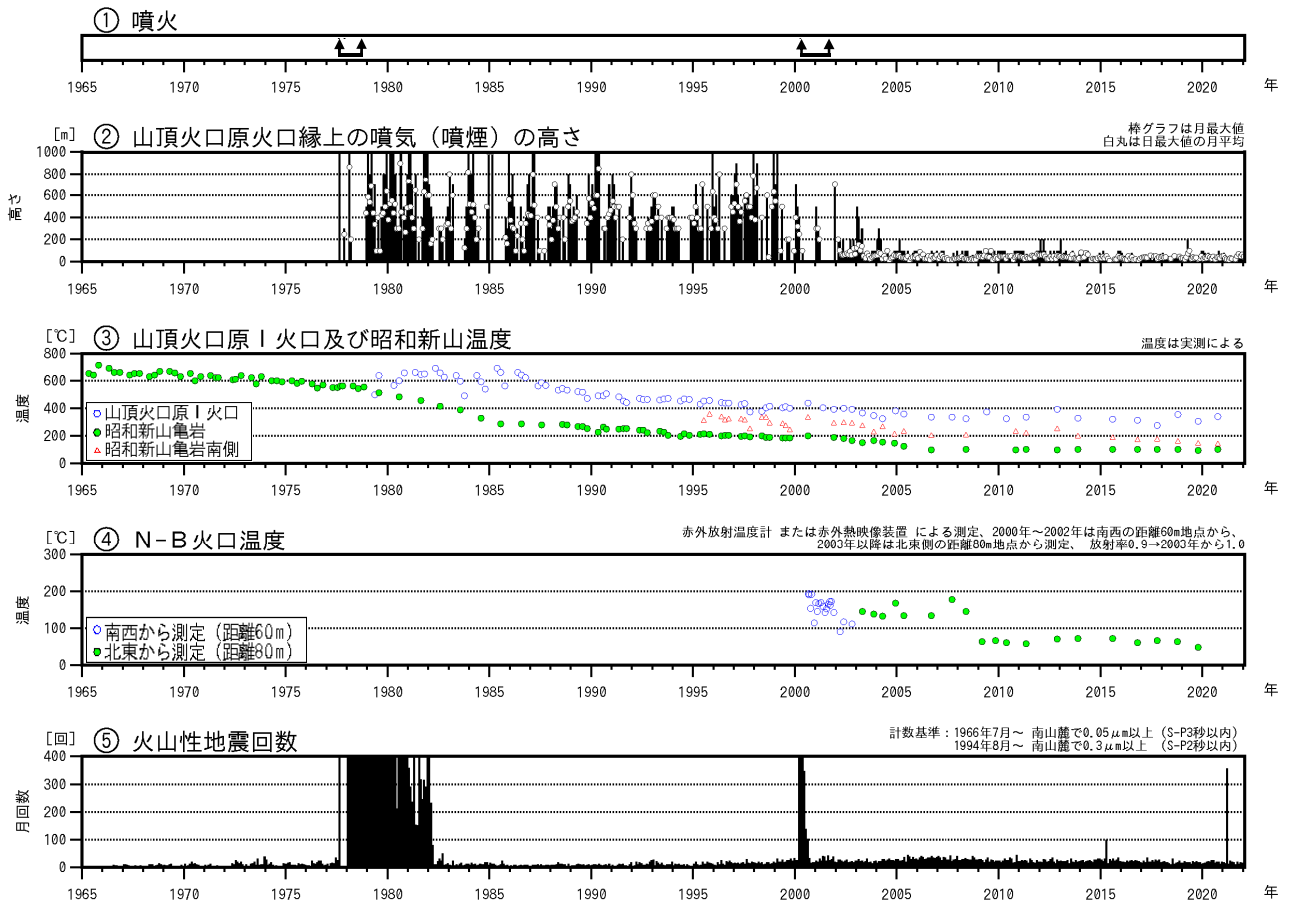


図1 有珠山 火山活動経過図 (1965年1月～2022年1月)
↑印で挟まれた期間は噴火活動期を示します。

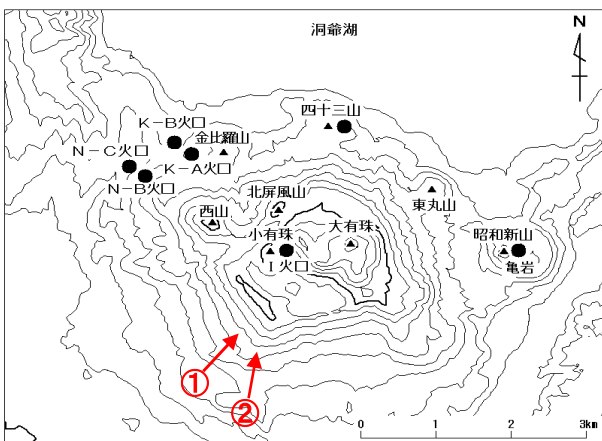


図2 有珠山 周辺図と赤外熱映像
及び写真の撮影方向 (矢印)



図3 有珠山 山頂火口原周辺の状況
南西側上空 (図2の①) から撮影

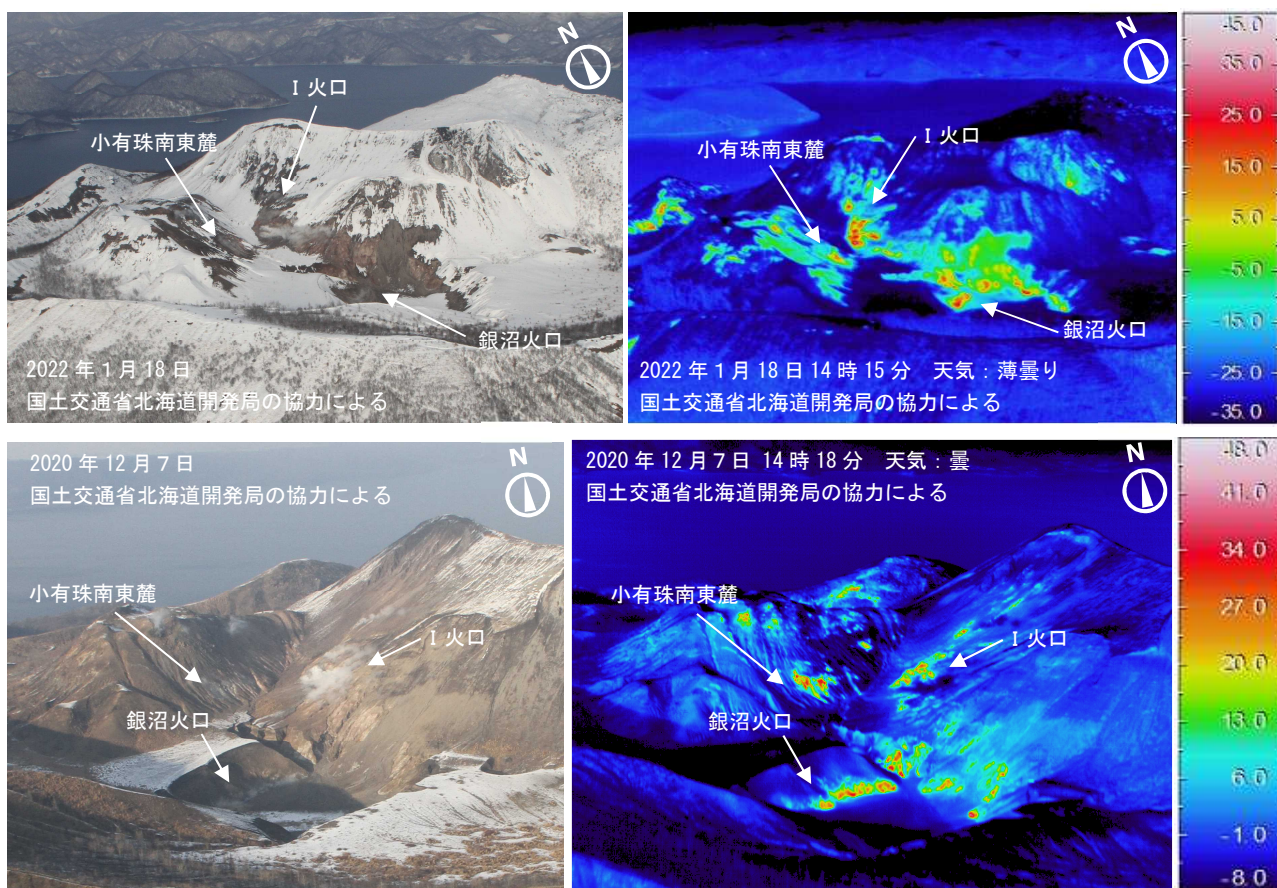


図4 有珠山 赤外熱映像装置による山頂火口原の地表面温度分布

上：南西側上空（図2の①）から撮影

下：南側上空（図2の②）から撮影

- ・ 山頂火口原内の噴気や地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。



図5 有珠山 北西側から見た山頂部及び周辺山麓部の状況（月浦監視カメラによる）

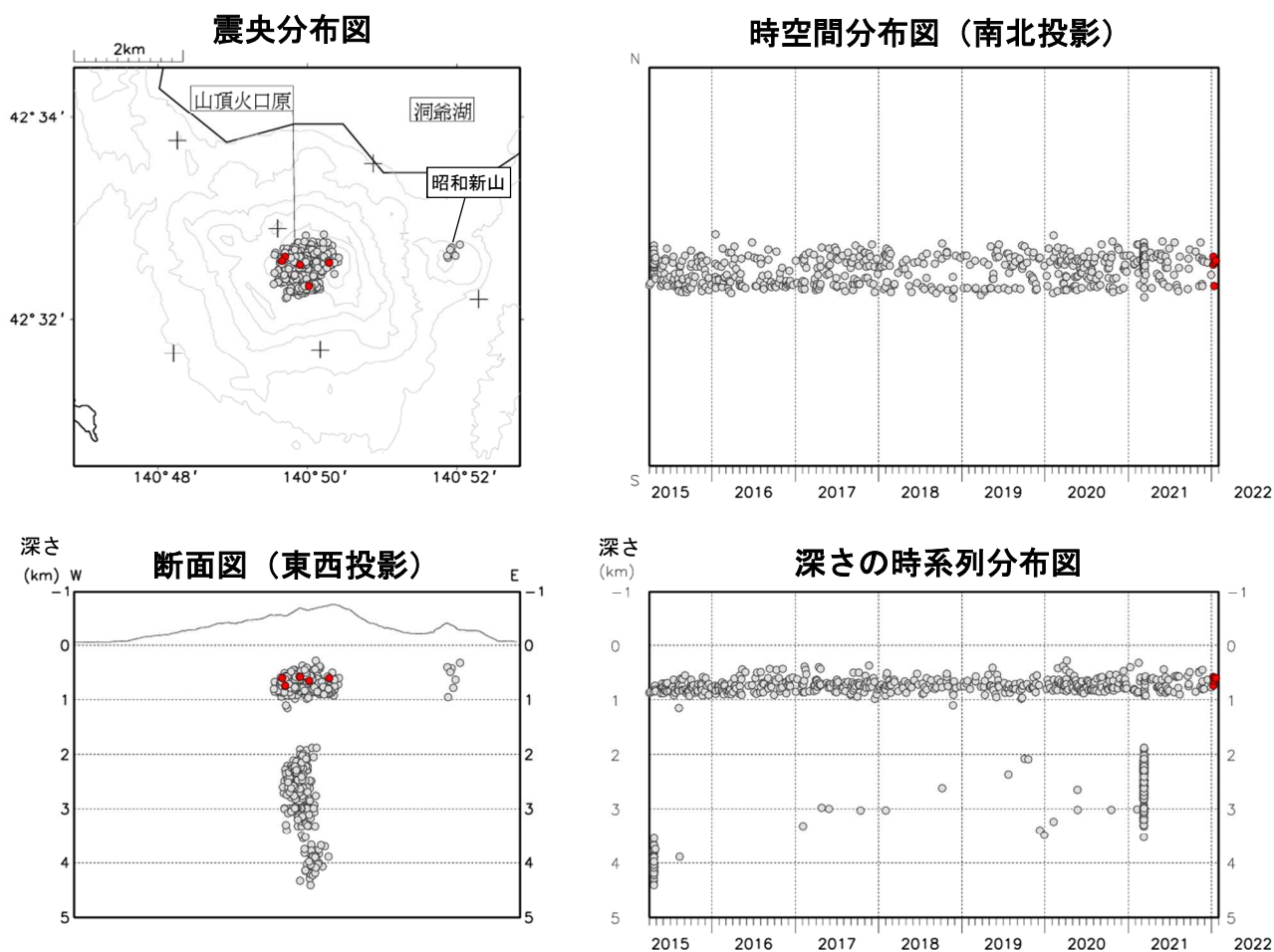


図6 有珠山 火山性地震の震源分布（2015年4月～2022年1月）

●印：2015年4月～2021年12月の震源 ●印：2022年1月の震源
 +印：地震観測点

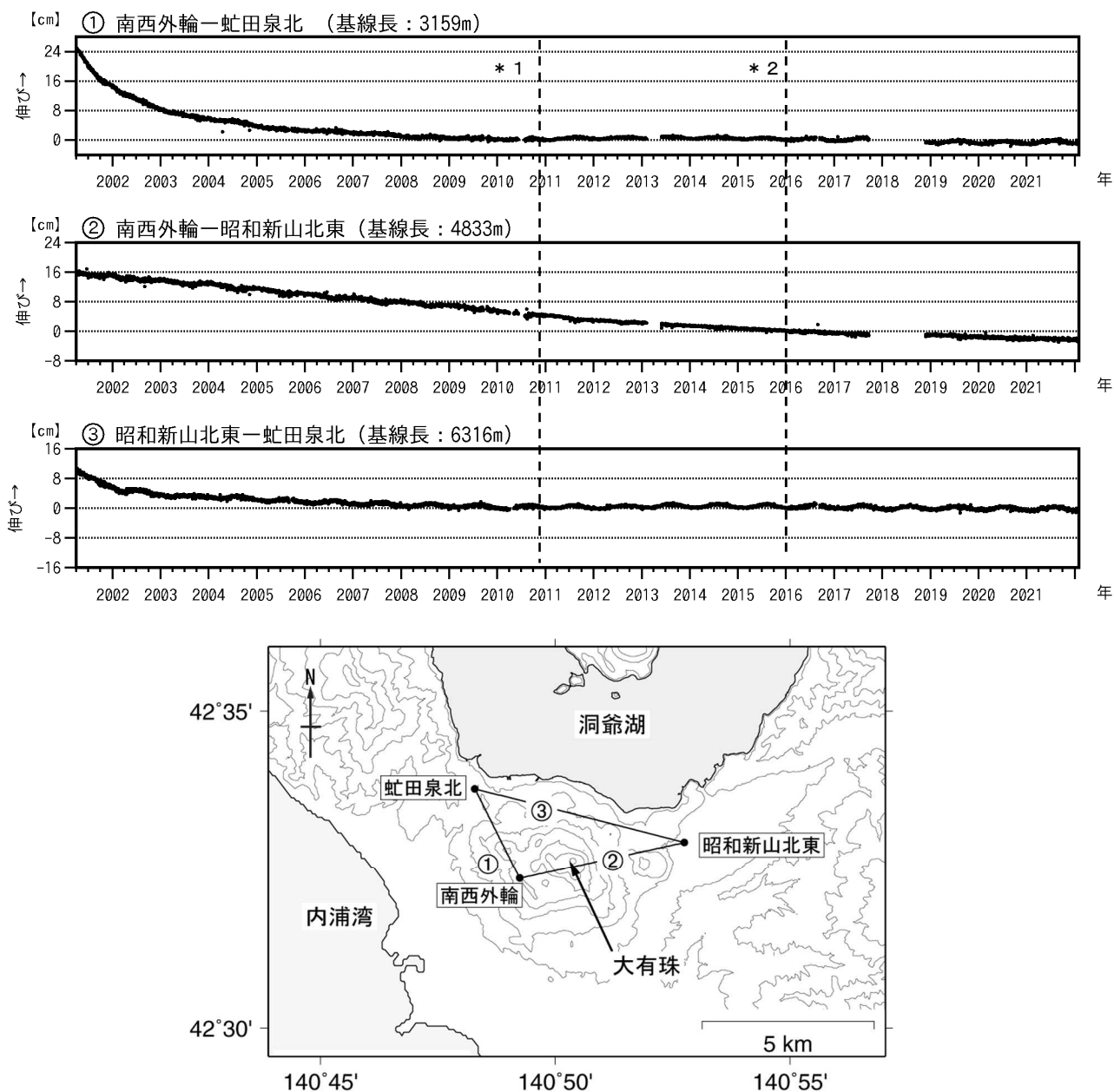


図7 有珠山 GNSS連続観測による基線長変化（2001年4月～2022年1月）及び観測点配置図

グラフ①～③は観測点配置図の基線①～③に対応しています。

グラフの空白部分は欠測を示します。

2010年10月（*1）及び2016年1月（*2）に解析方法を変更しています。

- ・観測開始（2001年）以降、1977年噴火に伴う貫入岩体の熱収縮によると考えられる基線②の短縮が観測されています。

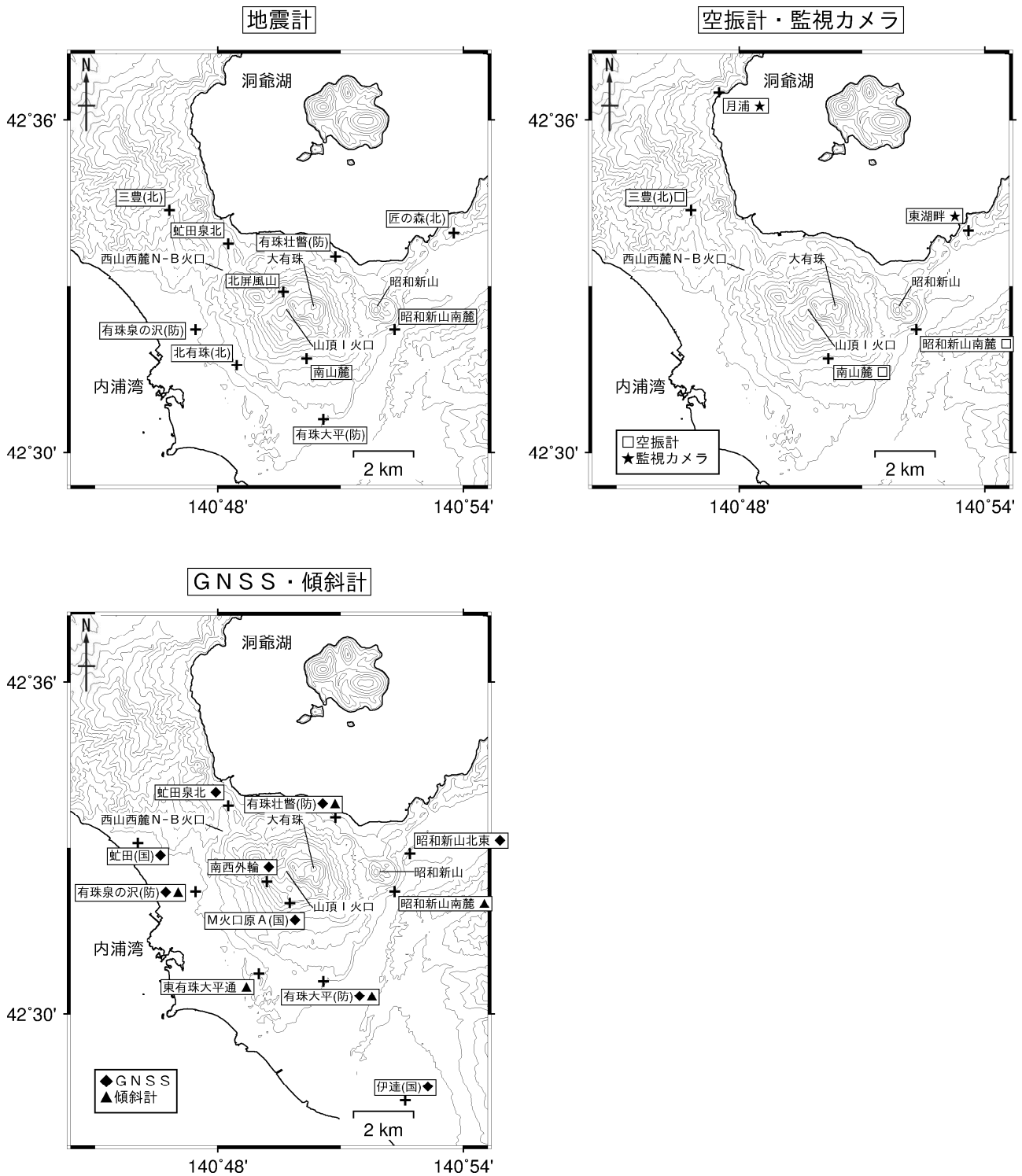


図8 有珠山 観測点配置図

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国) : 国土地理院

(北) : 北海道大学

(防) : 国立研究開発法人防災科学技術研究所